

## 2021 年度 SDM 学位授与式 修了生代表挨拶

本日は私たち修了生のために、日吉キャンパスでの式典を開催いただき、心より感謝申し上げます。1 年もの間、パソコンの画面越しでしか会えなかった先生方そして同期の皆さんと、こうして同じ空間でこの日を迎えられることに胸がいっぱいです。もはや皆さんの横顔や後ろ姿さえも、私には愛おしく感じます。ソーシャルディスタンスがなければ、思わず一人ひとりにハグをしていたかもしれません。学位授与式を対面で開催すべきか否か、きっと教職員の中でも何度も検討を重ねられたのだと思います。最後に、最高の贈り物をいただき、ありがとうございます。

このスピーチでは、12 期修了生はもちろんのこと、学位授与式を開催できなかった 11 期の先輩方の想いものせてまいりたいと思います。

まずは同期の皆さん、私たちは無事にこの日を迎えることができました！思い返せば、ちょうど 1 年前、新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの学生生活は一変しました。

2020 年 3 月 5 日、11 期の学位授与式の中止が決定されました。3 月 13 日には、慶應義塾大学から塾生全体に安否確認のメールが送られました。そして 3 月 19 日には協生館への入館制限が開始しました。未だかつて経験したことのない状況に置かれ、私たちの学生生活はどうなるのか、キャンパスに立ち入れない状態で果たして修士研究を進められるのか、きっと多くの人が不安を抱いていたのではないかと思います。

ですが、私たちは試行錯誤しながら、それこそ“イタレーティブ”に変化に適應することができました。いまこの場に同席できていることが、学生生活の変化に適應できたことの何よりももの証拠です。これを実現できたのは、強い信頼関係の下、同期で助け合えたからです。この強い絆なくして、修士論文の追い込みは乗り越えられなかったでしょう。

そしてもう 1 つ、SDM の教職員の皆様のご尽力があったからこそ、2 年間の学生生活、そして修士研究を全うすることができました。先生方は私たちに俯瞰的な視野を持つこと、そして“落としどころ”を設けずに限界を超えていくことを、教えてくださいました。また、修士研究では、悩み、葛藤しつづける私たちを、昼夜問わず根気強く指導してくださいました。修士研究にとことん向き合ったという自信をもって卒業できるのは、先生方の存在があったからです。

「30 年後の日本に責任を負うのは君たち世代だ」これはある授業の最後に贈られた言葉です。明日から、私たち 12 期は行き先の違うバスに乗り込みますが、それぞれの現場で、30 年後の未来をデザインすべく尽力してまいります。この決意を胸に刻み、SDM 研究科のますますの発展と、そこに関わるすべての方々のご活躍を祈念いたしまして、修了の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

令和 3 年 3 月 26 日

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科

修了生代表 杉野みらい